

# 一般質問通告議員

H24年第2回（6月）定例会

- 1 山 川 香 一
- 2 樗 沢 諭
- 3 八 木 清 美
- 4 堀 川 義 徳
- 5 渡 辺 幹 衛
- 6 横 尾 祐 子
- 7 宮 澤 一 照
- 8 関 根 正 明



# 一般質問通告要旨

H24年第2回（6月）定例会

## 1 山川香一

### 1 集団登校と通学路の安全対策に関連して

全国で、集団登校中の通学路において、大変痛ましく、また許せない事故が相次いで発生している。京都、千葉、愛知等で集団登校中の小学生の列に車が突っ込む事故が立て続けに起きている。幸い妙高市では発生していないが、妙高市でも、もう一度、通学路の危険箇所や通学路の安全の見直しが必要との声が多くある。

集団登校と通学路の安全対策については、現在、地域の方々の支援を得て対応されているが、子供たちを守るため、道幅、交通量、標識、登校班の人数などの総点検が必要と考えるがどうか。

### 2 特別養護老人ホームに関連して

先月、建設厚生委員会での先進地視察調査で、美濃加茂市では福祉サービス従事者のスキルアップ支援事業で福祉技術の向上対策に取り組んでおられた。また、長浜市においては、本の読み聞かせによる認知症予防事業等で高齢者対策に積極的に取り組んでおられ、さらには桑名市においても施設整備の充実とともに介護支援ボランティア事業に予算を確保し、ポイント制度をつくり、高齢者の生きがいがづくりや健康増進に努力されていた。当市の高齢化率も大変高くなっている状況で福祉の充実が必要と考える。

- 1) 現状では、特別養護老人ホーム入所希望者が多くなっているが、施設整備計画の見直しはどのようか。
- 2) 介護度別入所希望者の状況はどのようか。
- 3) 入所できる民間の施設はたくさんできたが料金が高額であり、入所希望者が利用困難である。やむを得ない事情により順番を待ちきれず民間施設を利用するときは、特別養護老人ホームとの差額を補助すべきと考えるがどうか。

### 3 保育園、幼稚園、学校の耐震化に関連して

- 1) 当市でも耐震化に努力し取り組んでいるが、耐震化していない保育園、幼稚園、学校ごとの耐震化スケジュールはどのようになっているか。
- 2) 多くの子供たちがいる保育、教育施設の耐震化は急務であり、今年度補正予算を組んで直ちに耐震化すべきとの意見もあるが、どのような考えか。

- 3) 地震の備えとして、最低限の対応として、子供たちの身を守るシェルターを教室に児童数分設置する考えはあるか。
- 4) 今年度耐震化工事をしない施設で、万が一、死者が発生したとき、具体的な救済方法はあるか。

#### 4 鳥獣、クマ対策に関連して

- 1) 年々、クマ、イノシシ、猿などによる田畑作物被害が多く発生し、農家の皆様も大変苦勞している。行政でも農作物被害、人的被害防止に努めており、被害防止の電気柵購入に補助しているが、地区別や戸数の制限はあるか。また希望者数の状況や予算的にはどのようなか。
- 2) 今後もクマ、イノシシ、猿などの被害が増加すると見込まれ、捕獲檻等の増加設置などを農家の皆様が強く望んでいる。被害防止対策の今後のさらなる充実についての考えはどのようなか。

#### 5 市老連（妙高市老人クラブ連合会）体育大会の支援に関連して

現在、当市の高齢者は増加の一途である。先月、建設厚生委員会で先進地を視察したが、どこの市も医療費の抑制、健康増進、介護予防の観点から積極的な予算付けを行い、健康増進、体力増進、また生きがいづくりに励んでおられる。高齢者には特に適度な運動が必要である。また友人との対話も重要で、特に運動を推奨し参加してもらうことが大変重要である。

高齢者は運転免許証返納等で自家用車を運転できる人が大変少ない。市老連体育大会に多数の参加を促し、高齢者の健康増進、医療費の抑制のため、バス費用補助金、現行10万円をさらに増額すべきと考えるがどうか。

## 2 樗 沢 論

### 1 公共投資の見込みについて

- 1) 景気の低迷が続いており地域経済の活性化が急務である。また、公助を中心とした防災力の強化も必要であり、地域経済活性化と防災力の強化のため公共投資は重要であると考ええる。

今後、5年間の公共施設整備と道路や河川、下水道などの社会資本整備の見通しは。

- 2) 公共施設の適切な改修、改築に対する考えは。

### 2 駅周辺の駐車場等の整備について

- 1) 北新井駅の周辺整備計画の進捗状況はどうか。  
また、北新井駅の東側にある市有地を公園、駐車場等に有効活用してはどうか。

2) 新井駅の周辺に無料駐車場、屋根付き駐輪場を整備してはどうか。

### 3 通学路の安全対策「安全マップ」の作成について

- 1) 4月23日に京都府亀岡市で登校中の交通事故で多数の死傷者が出た。その後も登下校時の通学路での惨事が続いて発生している。市内の小・中学校における通学路での安全確保の対応策はどのようなか。
- 2) 児童・生徒を対象とした交通安全指導、自転車の安全運転指導などの実施状況は。
- 3) 児童・生徒を交通事故や犯罪から守るための取り組みとして、「安全マップ」を子供たちが話し合いながら、地図上で作成すべきと考えるがどうか。

## 3 八木清美

### 1 「地域特性を生かした魅力あるまちづくり」で少子化に歯止めを

少子化の大きな要因の1つとして、婚姻率の減少が挙げられる。各自治体では、結婚や子育てに対して種々優遇措置を講じているが、やはり少子化対策の原点は若者が生き生きと暮らせる妙高の魅力あるまちづくりや働く場である企業の存在だと考える。

- 1) 妙高市では、結婚支援策として妙高出会いサポート事業で効果的な取り組みを行っている。そして、この事業の案内はお知らせ版等に載せているがどのくらいの人が見ているか疑問である。さらに効果を上げる手段として、妙高チャンネルやみょうこうメールマガジンなどを利用した丁寧な案内が必要と考えるがどうか。
- 2) 今の時勢に企業誘致は困難と思うが、今後、東海沖地震や都市直下型地震が起こる確率が高いと言われている中で、当市は震災にも強い地盤のしっかりしたまちであることを実証し、自然や農業、観光などの地域性を生かした若者の働く場所を提供すべきと考えるがどうか。
- 3) 今年度、長沢地区に建設される集合住宅は高齢者の入居を目的に設置されるが、これからは地域バランスを考慮し若い世帯も一緒に入居できる住宅を建設し、その中でコミュニティーをつくる必要がある。  
さらに、都会の人を呼び戻すための地域性を生かした「温泉付き、ファッション性が高い、震災・豪雪に強い」など、本格的な妙高型集合住宅の設置に取り組むべきと考えるがどうか。
- 4) 現代社会は、兄弟も少なく男女ともに触れ合う機会がないため、大人になっても子供の扱いがわからず、子供に対して無関心になっていると考える。小・中学校時代から、家庭を持ち子育てをすることの大切さを授業に取り入れ、子供と触れ合う機会を一過性ではなく何回か繰り返し、身に付ける教育が大切と考えるがどうか。

## 1 今冬の豪雪について

- 1) 今冬の豪雪による被害状況を踏まえ、各課における課題と今後の対策を一括管理していく必要があると考えるが、そのような作業は行われているのか。
- 2) この12月からの降雪に間に合うような対策の工程でなければならないと考えるがどうか。

## 2 市内小中学生の学力について

- 1) 全国標準学力テスト（NRT）や全国学力・学習状況調査の結果を分析して、各校の今後の教育に反映させるべきと考えるが、どのような形で反映していくのか。
- 2) 小学生の基礎学力向上を目的とした放課後等学習支援モデル事業は、先進地視察を行った豊後高田市でも同様の事業があり大変効果が出ていた。今後、当市においても全小学校に普及させるべきと考えるが、その可能性はあるか。

## 1 原発依存からの脱却について

今廃炉を決めても、撤去完了まで30年以上もかかる。一方脱原発には、国民生活のさまざまな分野での不安が存在することも現実だが、脱原発に踏み込んでこそ、電力、雇用等々のさまざまな課題を前進的に解決可能となる。国民に対する十分な説明もできず迷走する国に対し、このようなときにこそ、地方から積極的に働きかける必要があると考えるが決意はどのようか。

## 2 「空き家」条例制定について

災害対応等安心・安全の立場から「空き家」対策は喫緊の課題だ。

- 1) どのような調査や対応を行っているか。また今後の予定はどのようか。
- 2) 3月議会では秋田県大仙市の代執行を行う条例制定を取り上げた。先日の報道では、見附市は空き家の管理責任を明確にするため条例を制定し、雪下ろしや家屋の補修について強制力のある行政命令を出すことを可能としたいとしている。この地域では「雪のけんかは夏にしろ」という俚諺（りげん）もあるくらいだ。周知や対応の期間も考慮すれば、9月議会がタイムリミットだ。国待ちでなく、全国屈指の豪雪地にふさわしい積極的な情報発信が必要だ。条例制定の考えはあるか。

### 3 安定雇用支援助成金制度等について

安定雇用支援助成金制度は、事業者にとっても求職者にとっても有効だが、盲点はないだろうか。

- 1) パナソニック社等の大量解雇から4カ月を経た。求人・求職状況はどのようなか。
- 2) 制度の利用状況はどのようなか。
- 3) 評価と問題点はどのようなか。
- 4) チェックの方法はどのようなか。

### 4 PTA会費の「流用」について

義務教育費での断りにくい税外負担問題として、教育委員会の責任ある指導と改善を求めたい。

6 横尾 祐子

### 1 妙高市の放射能汚染の現状について

東日本大震災から1年が経過し、東北の方々の1日も早い生活の復興を願う思いは皆一緒である。東京電力福島第一原発事故後、現在、各自治体ではエネルギー問題や環境問題に直面している。文科省でも毎日放射線量を測定し、新聞等でも発表しているが、当市においても各学校で測定し安全を確認している。

先日、県内で流通する農産物などのサンプル調査において、妙高市産のシイタケから微量のセシウムが検出されたと発表があった。新基準値を下回り問題はないと聞いているが、農業経営への影響が懸念されるがどうか。

また、地元産の食材を給食に取り入れているが、食材の安全性の確保が重要である。現状はどのようなか。

### 2 並行在来線の維持、存続のために地域のマイレール意識の醸成を

平成27年3月の新幹線開業に伴い、JRから経営分離される並行在来線の維持、存続に向けて「新潟県並行在来線株式会社」を設立し、現在、取り組んでいるところである。鉄道は私たち住民の暮らしを支える、なくてはならない交通手段である。地域の鉄道を一人一人が守り育てていく意識（マイレール意識）を持ち、積極的に利用していくことが重要と考える。

- 1) 沿線3市での説明会や住民対象のワークショップなども開催しており、参加者の意識も高まったのではないかと考えるが、その具体的な内容と参加者の反応はどのようなであったか。
- 2) 地域住民への広報とマイレール意識を広げることが大切だと考えるが、今後の取り組みは。

- 3) 昨年の報道で直江津駅から妙高高原駅までトロッコ列車を走らせたいと社長による発表があった。また、知事もリゾート列車を走らせるという発言があるなど、当市の観光振興に大いに期待が持てる内容だが、今後の観光面での活用をどのように考えているか。

## 7 宮澤 一 照

### 1 基本方針にもあげられた「地域のこし」の実現に向けた考え方について

- 1) 観光地における地域のこしの考え方はどのようなか。
- 2) 今後、維持存続が危ぶまれる集落における地域のこしの方策についてはどのようなか。

### 2 スキー場を拠点とした冬期間の観光産業について

- 1) スキー場を拠点とした冬期間の観光産業について、本市としてのとらえ方はどのようなか。

## 8 関根 正 明

### 1 上信越高原国立公園の分割について

- 1) 上信越高原国立公園の分割における問題点は。
- 2) 国立公園「妙高」なり、国立公園「妙高・戸隠」にすることで、観光面、予算面等で計り知れない効果をもたらすだろうと考えられるが、本市の見解は。

### 2 岡倉天心没後 100 年、生誕 150 年について

- 1) 来年は岡倉天心没後 100 年、生誕 150 年になるが、イベント等の計画は。
- 2) 天心のオペラ「白狐」(The White Fox) の上演を市長が言及していたと思うが、金銭面で非常に難しい問題も含んでいると聞く。没後 100 年を機に、簡素化してでも上演を検討すべきと考えるが、本市の見解は。